

フランス人日本へ行く

日本と同じくフランスも5月は祝祭日が多く絶好の旅行シーズンである。

5月1日(月)メーデー、8日(月)第二次世界大戦終戦記念日、18日(木)キリスト昇天祭、29日(月)ペンテコステ(聖霊降臨祭)、加えて4月22日から5月10日は春休み。バカンスを楽しみに生きているフランス人がじっとしている訳がない。

日本では新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5月8日から「5類」に移行し、季節性インフルエンザなどと同じ扱いになった。2020年3月から続いてきた日本の厳しい水際対策がようやく終わった。外国人は入国禁止、入国72時間前PCR検査陰性証明書、コロナワクチン3回接種証明書、入国時PCR検査、空港内待機3泊4日、自宅隔離14日間・・・



日本は一気に遠くなり、突然引き離されてしまった家族、3年間の日本のコロナ対策は一体何だったのだろうと今も納得できないことが多い。空港検疫所の人手不足から「5類」への移行を待たずに4月29日から日本に入国するすべての外国人、日本人に対して求められるのはパスポートだけとなった

た。人が一気に動き始めた。日本航空、全日空、エールフランス、アジアナ航空始め、各航空会社がフランスと日本を繋ぐ路線便数を大幅に増やして、料金も徐々に下がり、コロナ禍以前に戻りつつある。さらには年明けから止まらない円安で、私の周りだけでも4、5月に日本へ行くフランス人が7名。日本旅行ブームになっている。



ジュリーとサラ(27歳と31歳のフランス人女性空手家)もコロナでのびのびになっていた念願の日本旅行を実現した。4月30日道着持参でパリを出て、5月18日「キリスト昇天祭」の休みが終わる5月21日までの3週間で、私が遠隔で滞在を手伝った。

東京に到着し先ず向かったのが文京区後楽にある「JKA公益社団法人日本空手協会総本部道場」だった。5月2日創立記念日と続くゴールデンウィークで日本での初稽古は翌週に延びた。観光目的で短期滞在する外国人が利用できる割引パス「ジャパン・レール・パス」

を事前に購入してもらい東京から箱根に移動、クレマテイスの丘へ行くバスは二人を含めすべて外国人だったのに驚いた。

箱根から東海道線で大阪、奈良、京都、姫路を観光し、広島宮島の宮島。大阪ではお好み焼き、京都では懐石料理の予算がなくおぼんざい、宮島では焼き牡蠣を堪能した。大阪、京都、東京で待望の日本初稽古の夢も叶い喜びのメールが届いた。大阪城と姫路城はフランス人にも人気で天守閣を背景に撮れる写真スポットなどSNS、インスタグラムと言ったネットワークの威力には改めて感心させられる。

和食の小さなお店も何故か外国人で一杯だったりするので驚きだ。日本はどこへ行っても清潔で人も親切で食べる物も豊富で、5月の太陽にも恵まれて大満足の日本旅行となった。

日本に外国人が溢れる熱気に比べればフランスを旅行する日本人の数はまだ控え目である。カンヌ映画祭(5月16日から5月27日)、ブローニュの森ではテニス「ロラン・ガロス」(全仏オープン)(5月22日から6月11日)が始まる。フランスの一番良い季節だ。観光だけでなく、パリで開催される国際学会や授与式なども再開された。

フランス公益社団法人「ルネサンス・フランセーズ」の日本代表部・瀬藤澄彦氏(常任理事会長)が栄誉賞を受勲すべくパリに来られた。「ルネサンス・フランセーズ」は1915年レイモン・ポワンカレ大統領により創立され、現在もフランス共和国大統領ならびに4人の大臣の後援を得て活動している。アカデミー・フランセーズ会員、大臣、欧州議会議長を歴任したシモーヌ・ヴェーユが他界するまで「ルネサンス・フランセーズ」の名誉会長を務めた。日本代表部が2018年に設立され、会員組織として運営されている。

国連ユネスコ事務局長を勤めた松浦晃一郎氏が名誉会長、創立以来運営に尽力されている瀬藤会長が最高位「ルネサンス・フランセーズ大賞」メダイユ・ドール(金メダル)を受賞される。文化交流を通して平和を築くことを目的とし、「文化、連帯、フランス語圏」をモットーに掲げている。ボランティアで会長を務めておられる瀬藤氏のご苦勞に頭が下がる思いである。



1915年レイモン・ポワンカレ大統領により設立された機構で、文化交流を通して平和を築くことを目的としています。